



サンワコン設計第二部第一課
田治 雅章さん

1998年 3月 福井工業高等専門学校を卒業
4月 サンワコンに入社、設計部に所属
2001年 5月 設計第二部に異動
2002年12月 二級土木施工管理技士を取得
2004年 2月 一級土木施工管理技士を取得
4月 近畿地方整備局工務第二課へ出向
5月 初級システムアドミニストレータを取得
7月 色彩能力検定二級を取得
2005年 3月 一級造園施工管理技士を取得
2006年 3月 コンクリート技士を取得
2007年 4月 設計第二部に原籍復帰
2008年 4月 コンクリート診断士を取得
福井県コンクリート診断士会に入会

資格を取得して業務に生かす 発注者の立場になって苦労を実感

「資格取得のための勉強は、自分の知識として身に付く。勉強した内容が業務に直結することもあるので、楽しみながら資格を取っている」。

福井県に本社を置く設計コンサルタント会社、サンワコンの設計事業部設計第二部第一課の田治雅章さん(30)は、そう話しながら資格の合格証書の束を見せてくれた。

一級土木施工管理技士、一級造園施工管理技士、コンクリート技士、コンクリート診断士と、若くしてたくさんの資格を取得している。特に、2008年4月に合格したコンクリート診断士は、ベテランの技術者でも取得するのがなかなか難しい資格だ。

「会社では直属の部長が取得しており、福井県のコンクリート診断士会などでも講演をしている。その会に出席して勉強しているうちに、業務にも直結するものだとわかり、資格を取得したくなった」と田治さんは

話す。福井県のコンクリート診断士会に所属する資格者では、最も若い。

経験を重ねて目標が増える

田治さんは2004年から3年間、発注補助業務で国土交通省近畿地方整備局工務第二課へ出向経験がある。

出向中はトンネルの工事を担当することになり、設計から工事の完成まで一連の流れを見ることができた。

「広く浅くではあるが、コンサルタント時代にはわからなかった発注者の苦労がわかった」(田治さん)。

経理や予算の配分、申請業務、ほかの工事との調整など、発注者がこなす仕事は意外と多岐にわたっていた。決裁をもらえずに、事業が進まないこともあった。

「いつまでにその決裁をもらえばよいかを常に考えておかなければならない。いつも時間がかかると思っていた発注者の仕事に、実はこのような苦労があるのだと初めて知った。発注者の立場を経験しなければ、わからなかったことだ」。

入社当時、田治さんは景観デザインや、橋の設計などに興味を持っていた。しかし、いまの目標は取得したコンクリート診断士を生かして、診断業務のスペシャリストになることだ。出向を経験したり日々の仕事をこなしたりするなかで、目標が変わった。維持管理業務を手がける機会が増えたことも要因の一つだ。

とはいえ、橋の新規設計などに対する思いは捨てていない。やりたいことが増えた格好だ。

多方面に興味を持つ多様な感受性は、若手の強みだ。経験は少なくても、いろいろなことに興味がわき、のめり込める。一方の上司は、多様な視点を持つ部下と話をすることで、刺激を受けることがあるのではないだろうか。

上司である同社設計第二部部長の中山伸一さんは、「これからは診断業務の経験を積んでもらい、コンクリート診断士同士で互いに意見を交わしたい」と、今後の田治さんとの仕事を楽しみにしている。